

令和5年度 第1回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

1. 期日：令和5年6月1日（木）15：00～17：00
2. 場所：有田工業高校 会議室
3. 参加者：校長を含む委員11名（欠席2名）
事務局13名（本校職員）
4. 会次第及び議事録
 - (1) 開 会
 - (2) 任命状交付
 - 机上交付とした
 - (3) 学校長挨拶
 - (4) 佐賀県教育委員会事務局挨拶
 - (5) 委員および本校事務局教職員の紹介
 - それぞれ自己紹介で行った
 - (6) 会長および副会長選出
 - 立候補者が出なかったため事前に用意した会長・副会長を推して承認された
 - (7) 会長挨拶
 - (8) 説明事項（進行は会長）
 - ① 学校運営協議会制度について
 - 主幹教諭より制度について簡単に説明
質問等はなし
 - ② SAGA コラボレーション・スクール事業について
 - 主幹教諭より事業について簡単に説明
質問等はなし
 - (9) 議事（進行は会長）
 - ① 令和5年度 学校運営の基本方針について
 - 校長より長期経営計画および本年度の教育目標について説明と報告
 - 校長より令和5年度 学校評価計画について説明と報告
 - 質問：定時制の生徒について、働きながら学校に来ている生徒はどれくらいいるのか
 - 回答：定時制の生徒が41名で仕事をしている生徒が22名いて、50% ちよっととなっている。1年生も入学して間もないが、仕事をしている生徒が3名（入学生は13名）
 - ② 令和5年度 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）年間計画
 - 主幹教諭より説明
 - 質問：魅力強化で様々な取組を行うのはよいが、それに伴って先生方の負担が増えるのではないかと懸念している。負担を減らすことに

ついて、どのようなアイデアなどがあるか。

回答(校長):生徒の頑張りを様々な場面で取り上げていただくことで、また別のところから新たな依頼がある。このような依頼を全部受けてしまうと、生徒にとっては経験にもなるし学校のPRにもなるが、職員の負担が大きくなってしまう。また、せっかく頑張っている取組をある程度のところで妥協するというのもどうかと考えてしまう。優先順位をつけることを考えたりもするが、校長としても難しいと考えている。

学校運営協議会の場で、「誰々先生を」ということはできないが、「何々の分野に精通した職員を」増やしてくれないかというような要望を県教育委員会に出していただくということがあると嬉しい。具体的な数値を出すことはできないが、教員の時間外勤務は他校と比べて多い方だと感じて、管理職で頭を悩ませており、職員に申し訳ない気持ちでいる。ただ、具体的な対策について特にあるわけではない。

質問:プロジェクトは数を増やすなどのことを行うと、負担が増えるのは当然。魅力強化というのであれば「広報に精通した職員」といったような魅力の強化策を実践できるような人物を県に依頼するというようなことは可能か。

回答(県教委):国の法律や予算とかがかかわってくるために人的なサポートを行うことは難しい。しかし、広報のために動画を作成するなどについては、業者へ委託することを今年度から指定校の一部で始めた。この取組を検証して、効果があれば予算を獲得し、学校に広めていきたい。例えばコーディネーターを配置したり、業者に委託したりするなどの方法で先生方の負担を減らす方策を行っているところである。

質問:インターアクトクラブについて教えてほしい。どのような活動を行っているのか。

回答(校長):インターアクトクラブはボランティア活動を行うクラブである。この数年は活動が低調であったが、本年度は熱心な指導者が異動で赴任してきたこともあり、またコロナが落ち着いてきていることもあり、活動が活発になっている。さらに部員も増えており、ボランティア研修に参加するなど意欲的な生徒もいる。今後も地域貢献活動が増えてくるのではないかと期待している。

質問:学校の年度計画について。平日でもよいので、授業参観など学校開放日を多く設定してもらえないか。

回答(校長):これまではPTA総会時に合わせて授業参観を行っていた。過去3年間はPTA総会を開催できておらず、今年度久々に開催し、授業参観も行ったが、以前の開催と比較すると参加者が低調であった。それ以外は体育祭や文化祭などの学校行事の際に学校を開放している。保護者の方々にも、専門的な科目を見させていただく授業参観を開催するなど、今後検討していきたいと思う。

③ 質疑応答

質問：定員割れについては具体的にどのような対策をしているのか。

回答（校長）：これまでにやってきた活動は、中学生に本校の魅力を知ってもらうための夏休み期間中に2日間行う体験入学。ここでは授業体験などの活動をしている。あとは、県内の高校すべてが参加しているが、6月に行う高校進学相談会。こちらはブースを作って学校の説明や相談を受けたりしている。また、オンラインまたはオンデマンドで学校の紹介動画を中学生がいつでも見ることができるハイスクールウェビナーも行っている。

さらに、校長が有田、伊万里、武雄地区の中学校に訪問しているし、教務や主幹教諭などが中学校に出向いて学校説明を行っている。ただ、以前は中学校からの依頼で高校側が出向き、生徒や保護者に直接説明する会があったが、昨年度から行わないようにという指導が入ってかなり少なくなった。今年度はそのような指導が緩んだため、再び復活して企画している中学校もある。

あとは、中学校の先生方は普通科を卒業された方が多く、専門高校の専門的な授業の様子は知らないのではないかと思われるので、中学校教員を対象にした学校見学会については、以前企画したがなかなか参加者が増えなかった。忙しい中学校の先生が参加できるような機会を設けたいと考えている。

(10) 意見交換・グループ協議

テーマ：「有工生に有田の町を『自分たちの町』と思ってもらうために」

・地域みらい留学及び留学生の現状報告と課題感の提示を行った後、委員と本校職員が6グループに分かれて、15分程度のグループ協議を行った。

・グループ協議の報告

Aグループ：地域の人たちとの交流することで地域の中に「知り合い」がいる環境づくりを行ってはどうか。このためには本校で行っている地域学習で地域の人たちも一緒について回るなどといったことが考えられないか。また、インターンシップも対象の企業を有田の地域企業で行うということも考えられる。

Bグループ：地域への就職の意識が低い。メディアを通して有田工業高校のことを知ってもらうことや、町内のイベントに生徒が参加して地域が盛り上がっているという雰囲気を感じてもらえればいいのか。

Cグループ：定時制の生徒は地域でアルバイトをしており、地域に大切にしてもらっている印象がある。むしろ定時制の生徒の方が愛されているかもしれない。地域の方々も有田工業高校のことを気に掛けてくださっているかもしれないが、そのことに生徒が気づいていないのではないか。様々な場面で生徒に紹介することで、生徒に自覚を持ってもらう必要もある。また、3年生の終わりの時期に「有工検定」というものを実施しているが、

実施時期を工夫する（全学年で行う）などして、生徒に有田のことをもっと知ってもらうこともよいのではないか。

Dグループ：有田の町に興味を持ってもらうことがまず大事ではないか。そのために例えば、有田陶器市の時に、アルバイトだけではなく何らかの形で全員が参加（ゴミ拾いなど）することや、秋の陶器市に「小学生ガイド」が参加しているが、高校生も一緒にガイドを行うという方法もあるのではないか。

Eグループ：他の市町で行われている例を参考にしてはどうか。学校で行っている既存の行事（ボランティア活動など）に、地域の方を入れて一緒に活動する。例えばボランティアの清掃活動時に、地域の人たちにも「見守り隊」的な感じで生徒の活動をサポートしてもらうことが考えられる。

Fグループ：地域の人たちと有田工業高校の生徒とのかかわりが少ない。2／3以上の生徒が電車通学で、駅と高校との往復のみで生活をしている。これを解消するには、地域に入るきっかけを作らせたいので、生徒が立ち寄れる「たまり場」的な飲み食いができるお店が欲しい。コンビニ以外の店舗・場所があればよい。

(11) 諸連絡 次回は、7月中旬～下旬に開催予定

主な議事（予定）：令和6年度教育課程、令和6年度使用教科書について

(12) 閉 会